



みつやまきいち 県政だより

後援会事務所 〒961-0855 白河市高山西12-7
http://www.mitsuyama-kiichi.org

TEL 0248-27-2516・FAX 0248-27-3572
E-mail: mail@mitsuyama-kiichi.org

令和4年 春号

ご挨拶

春暖の候、皆様には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

令和4年3月16日午後11時36分に発生した福島県沖地震により、お亡くなりになられた方に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

東日本大震災・福島第二原子力発電所事故から11年が過ぎました。複合災害からの復興はいまだ途上にあり、原発事故からの原子炉建屋では1号機から3号機の溶け落ちた原子炉内に残る核燃料「燃料デブリ」を冷やすための注水が続いていることに加え、建屋への雨水や地下水の流入が続く、1日140トンのペースで放射性物質を含む汚染水が発生しています。この汚染水は、高い濃度の放射性物質を含んだ「汚染水」となるため、多核種除去設備「ALPS（アルプス）」などの設備にかけて浄化処理がおこなわれています。この大部分の放射性物質を除去した処理水を現在、福島第一原発敷地内のタンクに貯蔵しております。この浄化処理した水をどのように処分するかについては、さまざまな議論と検討の結果、2021年4月13日、「廃炉・汚染水処理水対策関係閣僚等会議」が開催され、「2年後をめどに海洋放出する」という基本方針が決定されました。海洋放出する際には、再度ALPSを使った浄化処理、つまり二次処理がおこなわれ、トリチウム以外の核種について、「環境に放出する場合の規制基準」以下まで問題なく浄化できることが確認されていますが、福島をはじめ被災地の皆様や漁業者の方々が風評被害の懸念をもっており、政府が掲げる放出時期まで約1年と迫る中、政府に求める対応や処分を実施する東京電力について、復興の歩みをさらに前に進めるという強い決意をもつて、全力で取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症について、全国における新規陽性者は、冬休みや年末年始にかけての帰省や旅行などによる人流増加に加え、感染力の強い「オミクロン株」の出現により、年明け以降、日を追うごとに、急激なスピードで拡大し、福島県においても年明けの1月前半から新規感染者が増加傾向になり、中旬には感染者が100名を越え悪化の途をたどり下旬には200名を超える感染者が確認されました。政府は25日に、本県を含む18道府県に対し、「まん延防止等重点措置」を追加適用することを決定しました。

2月に入り、全国においては、1日当たりの新規陽性者数が初めて9万人を超え、感染爆発というべき状況が続く、本県の感染状況は、2月1日に、1日当たりの新規陽性者が初めて600名を超えるなど、都市部のみならず、県内全域において感染拡大に歯止めがかけられない状況にあり、感染状況を示す各種指標は、悪化の途をたどり中旬になると、1日の感染者数は平均約370人と確認され、特に都市部のみならず、これまで感染者が少なかった町や村においても、多くの感染者が確認されるなど、県内全域へ感染が広がっている状況が続きました。2月18日、県全域に対する「非常事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」の実施を3月6日まで延長しました。下旬になり、1日平均で約283人となり、県民の皆様、事業者の皆様、御理解と御協力により、徐々にその効果が表れ始め、減少傾向が続くようになっています。

3月に入り、全国においては、1日当たりの新規陽性者数が、7万人を下回る日も確認されたものの、各地では横ばいの傾向が続いており、増加に転じている地域もあるなど、いまだ第6波は継続していると言わざるを得ない状況にあり、本県の新規陽性者数が、1日平均300人から500人を超える日が確認されるなど増加傾向にあり、予断を許さない状況となり、中旬には、全国においては、1日当たりの新規陽性者数が連続して6万人を下回り、都市部でも減少傾向が見られるなど、第6波の猛威は収まりつつあります。本県においても、1日平均で約410から人370人まで新規陽性者数が減少してきました。下旬になり、落ち着いていた新規陽性者数が3月23日以降再び増加傾向となり依然として予断を許さない状況が続いています。

県民の皆さん、事業者の皆さんにおかれましては、この第6波を可能な限り低く抑えるために、改めて、基本的な感染対策であるマスクの着用、手洗い、3密の回避、換気の徹底などをお願いいたします。

また、体調が悪い時には、速やかに医療機関を受診していただき、外出や通勤、通学等も自粛していただきますようお願いいたします。

私も県議会議員として「復興・創生」と「コロナ対策」そして、この度の「福島県沖地震」の二日も早い復旧復興を着実に、しっかりと全力で取り組んでまいりますので、何卒皆様方のあたにかいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



福島県議会議員

満山 喜一

議役職

◎復興加速化・安全安心な県づくり特別委員会 委員

◎商労文教委員会 委員

自由民主党福島県支部連合会顧問

2月県議会

定例会

会期
2月14日(月)
3月22日(火)

令和4年度当初予算

1兆2,677億円 (うち復興・創生分 2,429億円)

総合計画における重点事業

3,499億円
527件

1. 復興・再生の加速

① 避難地域等復興加速化プロジェクト	42件	601億円
② 人・きずなづくりプロジェクト	39件	65億円
③ 安全・安心な暮らしプロジェクト	115件	754億円
④ 産業推進・なりわい再生プロジェクト	73件	745億円

2. 地方創世の推進

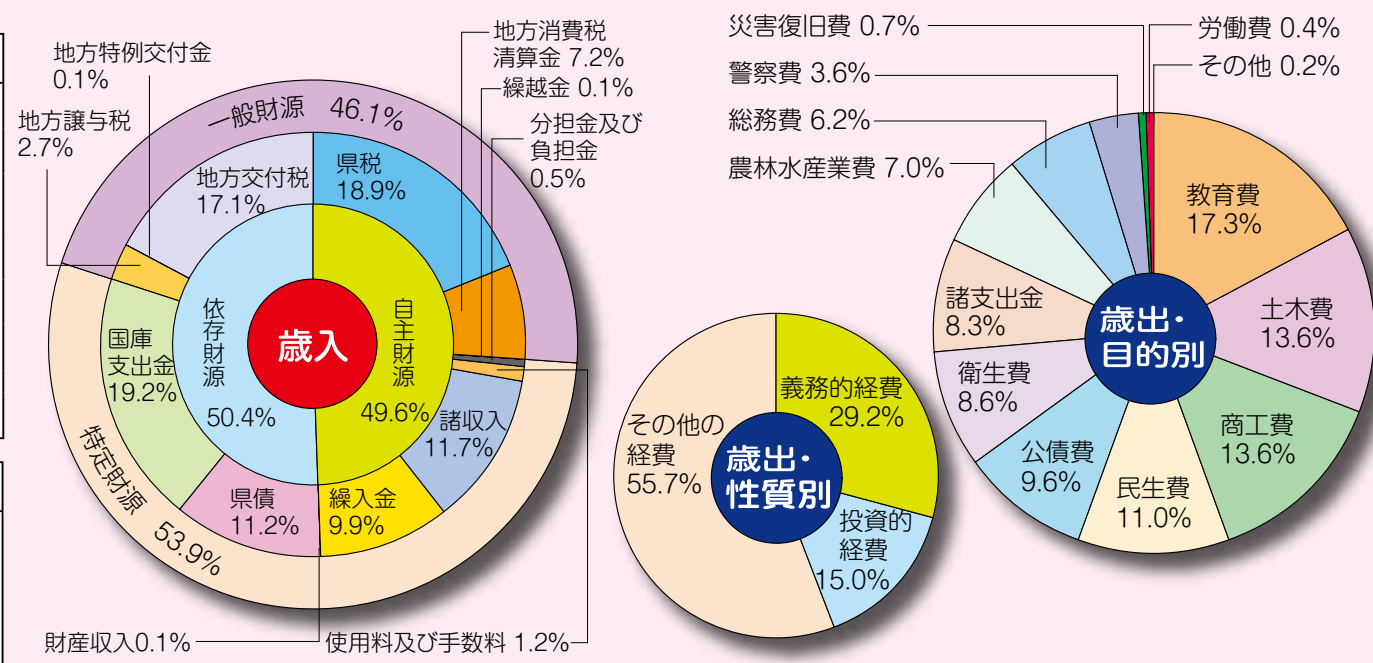
① 輝く人づくりプロジェクト	115件	206億円
② 豊かなまちづくりプロジェクト	42件	99億円
③ しごとづくりプロジェクト	56件	988億円
④ 魅力発信・交流促進プロジェクト	45件	41億円

令和4年度 当初予算

【歳入】1兆2,677億円	
1. 県 税	2,391億円
2. 地方交付税等	2,356億円
(うち地方交付税(通常分) 1,939億円 臨時財政対策費 185億円 震災復興特別交付税 232億円)	
3. 国庫支出金	2,437億円
4. 繰入金	1,254億円
5. 県 債	1,234億円
(臨財債除く)	
6. その他	3,005億円

【歳出】1兆2,677億円	
1. 義務的経費	3,703億円
2. 投資的経費	1,907億円
3. 一般行政経費	7,067億円

令和4年度 一般会計予算





県立高等学校改革前期実施計画における再整備に関する要望書



主要地方道棚倉矢吹線川原田工区開通式



白河リトルリーグ・グラウンド再整備に関する調査



国道294号白河バイパス南湖トンネル工事現場にて



国道294号白河バイパス小峰大橋渡橋式



東日本大震災追悼復興記念式典



感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で注意力が低下する。また、聴覚が鈍磨し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用は感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、例えば深夜のはしご酒では、昼間の通常の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- また大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケや野外のバーベキューでの事例が確認されている。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用施設での事例が確認されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での事例が確認されている。車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

